

新聞がつなぐボランティア 善意の心 被災者へ届け

あす伊島小 ジャワ地震募金活動

伊島小学校（岡山市伊島町）の六年生が十六日、同小で開く校内行事「いしま祭り」で、インドネ



新聞を使い下級生にジャワ島の被害を説明する
伊島小の6年生

シア・ジャワ島中部で発生した地震の被災者を救済するための募金活動を行う。授業でのNIE（教育に新聞を）の取り組みの中で児童が提案、保護者らにも協力を求める。

六年四組は、五月末に総合学習の授業でジャワ島の救援活動をする国際医療ボランティアAMD

A（本部・檜津）の新聞記事を取り上げた。活動を知った児童が「私たちも岡山から協力したい」と訴え、募金活動を計画した。

六月に入って、四組を中心に六年生約四十人が「いしま祭り」での募金を決めた。当日は、メンバーが手作り募金箱を用意、

ジャワ島の被害状況を掲載した新聞記事を掲げて来校する保護者らに募金を呼び掛ける。集まった浄財はAMDを通じて現地に届けられる予定。祭りに向けメンバー

震災の原因、被害状況など全校児童に説明。小野真理さん（二）は「理解を深め、事前に家の人にジャワ島の話をしてもらえば、祭り当日の募金につながるはず。一人でも多くの人を助けたい」と話す。（入野晶彦）